

これからの工業生産と私たち(日本の輸入の特色)

本時のねらい

主な輸入品である燃料を取り上げ、日本の輸入の特色について理解することができる。

使用する図解

- 図解20 ①エネルギー資源の輸入先と輸入経路 ②日本が輸入する化石燃料の相手国別比率
 図解21 ①LNGを運ぶ12万トンタンカー ②タンカーの大きさ
 図解23 日本と世界のエネルギー自給率

指導過程

時間	児童・生徒の活動	教師の支援
7分 (7分)	1 本時のめあて「日本の輸入の特色を調べよう」を確認し、教科書・資料集から日本の主な輸入品の1位について読み取る。	● 原油などのエネルギー資源が日本の輸入品取扱額の割合が1位であることを確認する。
10分 (17分)	2 図解20—①,②を読み取り、主な輸入先と経路を調べる。	● 中東から石油、オーストラリアから石炭など、中東とオーストラリアを中心に輸入していることを確認する。
7分 (24分)	3 図解21—①,②から、タンカーの大きさと、タンカー1隻が運ぶLNGの量を読み取る。	● 学校とその周辺の航空写真にタンカーの大きさを描き加え、大きさを実感させる。 ● 図解20—①をもう一度読み取らせ、1隻のタンカーで2~3週間かけて運び、3.5日で使い切ってしまうことをおさえる。
8分 (32分)	4 図解23から、なぜ日本がこれほど多くの燃料を輸入しているのか、理由を考える。	● 日本は工業生産が盛んである一方で、工業生産を行うためのエネルギー資源が自国内で確保できないことをとらえさせる。
10分 (42分)	5 教科書・資料集から日本の主な輸入品についてもう一度読み取り、日本の輸入品の特色について考え、発表する。	● 自国内で確保できないから海外から膨大な量を輸入していることをつかませる。

時間	児童・生徒の活動	教師の支援
3分 (45分)	6 本時の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー自給率を1日で考え、「1日で数時間しか電気が使えない」ということを確認し、少なさを児童にとらえやすくさせる。 ● エネルギー資源のように日本国内で取れない、工業に必要なものを輸入していることをとらえさせる。 ● 日本の輸入の特色として、工業製品の原料や燃料の輸入が多いこと、近年は機械類なども輸入していることを児童の発言から振り返りを行う。